



## 軽い火傷の応急処置

皮膚が赤くなったり、小さな水ぶくれが出来る軽度の火傷は、I度火傷です。II度やIII度の火傷であっても、体の一部分だけ皮膚が赤くなったり、水疱が出来る程度です。しかも、手、顔、足や生殖器には被害は及びません。上記以外は、重度の火傷となり、速やかな治療が必要となります。

### 軽度の火傷の手当て

火傷の部分を流水などで冷やし、そして原因を取り除きましょう。

- ショックに用心し、必要であればショックに対する手当てをしましょう。
- 火傷をゴシゴシ擦らない、水疱は潰さず、中和剤や軟膏を塗らないようにしましょう。
- 水で洗い流した後に、火傷箇所を殺菌した包帯で覆いましょう。



### 化学薬品による火傷

- 容器等に表示されている注意書きの指示に従いましょう。
- 薬品が乾燥状態であれば、ブラシ等で薬品を払い落としましょう。
- 火傷を流水で15-20分間洗いましょう。



### 熱による火傷

- 痛みが無くなるまで綺麗な水道水で洗いましょう。
- 殺菌した包帯で火傷を軽く叩きながら火傷の傷口を乾燥させて、包帯で覆いましょう。

### 電気による火傷

- 先ず感電した人に直接触れることなく、電源から感電した人を引き離しましょう。
- 呼吸と鼓動を確かめましょう。訓練を受けているようであれば必要に応じて救助用呼吸や心肺蘇生法を行いましょう。
- 電気が入り、電気が抜けて出来た2箇所の軽度の火傷は冷水で冷やしましょう。

